

「人を対象とする生命科学・医学系研究についての情報公開文書」

研究課題名：大学生における子宮頸がんおよびHPV ワクチンに関するリテラシーに関する研究：情報源の影響と認識の性差の分析

・はじめに

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の持続感染を主因とし、特に若年女性における主要ながんの一つです。予防および早期発見には、HPV ワクチン接種と子宮頸がん検診が有効であることが科学的に証明されているのですが、日本においては HPV ワクチンの接種率が国際的に著しく低い水準にあり、その要因として、2013 年の積極的勧奨中止、誤情報の流布、予防医療への意識の低さが挙げられます。また、HPV ワクチンの停止策である、キャッチアップ接種に関しても接種率が低いことも課題で若年層における子宮頸がんや HPV ワクチンに対する認識が不足している現状も、接種率の低迷に寄与していると考えられています。

大学生世代は性行動の開始時期にあたり、HPV 感染リスクが高い年齢層であるにもかかわらず、この世代における子宮頸がんおよび HPV ワクチンに関する認識や予防行動の実態に関する知見は限られています。また、性別や情報源が認識や行動に与える影響についても十分に解明されていません。特に男性においては、HPV 感染による疾患リスクへの認識が低く、女性の予防行動を支援する役割が十分に果たされていないことが課題として挙げられています。

一方で、学校や地域イベントを活用した啓発活動が効果的であるとされており、特に学園祭のような若者が多く集まる場合は、子宮頸がんおよび HPV ワクチンに関する認識向上のための貴重な機会となり得ますが、日本国内ではこのような場を活用した具体的な啓発活動の効果に関する研究は限られています。

本研究は、2024 年群馬大学の学園祭（荒牧祭）来場者を対象に、子宮頸がんおよび HPV ワクチンに関する認識と予防行動の実態を群馬県健康長寿社会づくり推進課が実施したアンケート調査を利用し、群馬県内の大学生に影響を及ぼす情報源や性別の違いを分析するとともに、学園祭というイベントを活用した啓発活動の効果を評価することを目的としています。

・研究に用いる試料や情報の利用目的と利用方法（他機関に提供する場合にはその方法を含みます）について

本研究は、2024 年 11 月に群馬大学情報学部片山研究室と群馬県が共同で荒牧学園祭

に出展した際に行った群馬県主催のアンケートを利用します。

データ取得方法に関しては以下の通りでした。

アンケートは、群馬県の本事業を評価するために実施され、学園祭会場で説明文書を配布し、研究の目的、方法、匿名性の担保、アンケート参加は強制ではないことを口頭および文書で説明し、実施されました。

アンケート内容は、

1. 基本的属性情報（年齢、性別、HPV ワクチン接種の有無、子宮頸がんの検診の経験、がんの罹患歴）
2. 子宮頸がんおよび HPV ワクチンに関する理解度
3. HPV ワクチンの情報源について
4. 子宮頸がんの予防に関する情報源について
5. 学園祭イベントの評価、情報提供の質、会場の雰囲気、企画の有用性
6. 自由記述欄（イベントに関する感想、改善点等）

データ解析に関しては、協力してくださった方の基本属性情報と学園祭イベント評価の関連性を相関分析または分散分析で検討します。学園祭イベントの評価項目の平均点や分布を分析し、全体的な傾向を明らかにしたいと考えています。自由記述欄に関してはテキストデータを感情分析およびキーワード抽出ツールで分析を予定しています。

・研究の対象となられる方

2024 年 11 月 16～17 日の群馬大学荒牧学園祭来場者のうち、アンケートへの参加に同意をした方で、そのうち学生（大学ならびに短大生や専門学校を含む）で、アンケート回答者本人が成人している（18 歳以上）方です。

・研究期間

学部等の長許可日～ 西暦 2027 年 3 月 31 日
情報の利用を開始する予定日は、2025 年 4 月末です。

・研究に用いる情報の項目

具体的には、

1. 来場者における子宮頸がんおよび HPV ワクチンに関する正しい理解度。
2. 学園祭イベントを通じた子宮頸がんに関する啓発活動の評価（情報提供の質、企画の有用性など）。
3. 大学生の基本的属性（年齢、性別、学部）による意識の違いと啓発効果の差異。

4. 自由記述から得られる、子宮頸がんに対する潜在的な意識や啓発活動のニーズ。
5. 情報源（SNS、家庭、教育機関、医療機関など）や性別の違いが認識と予防行動に及ぼす影響。などとなります。

・予想される不利益(負担・リスク)及び利益

既存のデータを使って行う研究のため、利益は、子宮頸がんに関する知識の向上が考えられます。不利益はありません

・個人情報の管理について

本研究では個人情報を扱いません

・試料・情報の保管及び廃棄

この研究により得られた血情報は、群馬大学情報学部のPW付PC内で保管・管理され、（管理責任者：片山佳代子）研究終了後は10年間保存し、保存期間が終了した後に廃棄いたします。廃棄はデータを保管していたCDを物理的に破棄して削除します。

・研究成果の帰属について

この研究によって生じた知的財産権は群馬大学に帰属します。研究に参加していただいた方に、この権利が生じることはありません。

・研究資金について

この研究に関しては特定の資金の使用はありません。

・利益相反に関する事項について

研究グループが公的資金以外に製薬企業などからの資金提供を受けている場合に、臨床研究が企業の利益のために行われているのではない、あるいは臨床研究の結果の公表が公正に行われないのではない（企業に有利な結果しか公表されないのではない）などといった疑問が生じることがあります。これを利益相反（患者さんの利益と研究グループや製薬企業などの利益が相反している状態）と呼びます。この研究の利害関係については、群馬大学利益相反マネジメント委員会の承認を得ております。また、この研究過程を定期的に群馬大学利益相反マネジメント委員会へ報告などを行うことにより、この研究の利害関係について公正性を保ちます。

・「群馬大学 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」について

この研究を実施することの妥当性や方法については、多くの専門家によって十分検討されています。群馬大学では人を対象とする医学系研究倫理審査委員会を設置しており、この委員会において科学的、倫理的に問題ないかどうかについて審査し、承認を受けています。

・研究組織について

この研究は、群馬大学情報学部、片山研究室が主体となって実施するものです。よって研究を担当する研究責任者、研究分担者は以下のとおりです。

研究責任者

所属・職名： 群馬大学情報学部准教授

氏名： 片山佳代子

連絡先：kkatayama11@gunma-u.ac.jp

研究組織の一覧

研究分担者	島田怜於	群馬大学情報学部	学生
研究分担者	富井建生	群馬大学情報学部	学生
研究分担者	藤原竜希	群馬大学情報学部	学生
研究分担者	谷脇愛都	群馬大学情報学部	学生
研究分担者	新井颯大	群馬大学情報学部	学生
研究分担者	米持晃輔	群馬大学情報学部	学生
研究分担者	新井優太	群馬大学情報学部	学生
既存の情報の提供のみを行う者	笠原美智代	群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課がん対策推進係	がん対策推進係補佐

・研究対象者の権利に関して情報が欲しい場合あるいは健康被害が生じたときに連絡をとるべき相談窓口について

研究対象者がこの研究および研究対象者の権利に関してさらに情報が欲しい場合、研究対象者が連絡をとる担当者は下記のとおりです。何かお聞きになりたいことがありましたら、どうぞ遠慮なくいつでもご連絡ください。

情報を研究に用いることについて、対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。研究対象者とならない場合でも不利益が生じることはありません。

【問合せ相談窓口（連絡先）】

所属・職名：群馬大学情報学部 准教授

氏名： 片山佳代子

連絡先：〒371-8510 前橋市荒牧町4丁目2番地

Tel：027-220-7427

上記の窓口では、問合せの他、次の事柄について受け付けています。

- (1) 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびに
その方法 ※他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支
障がない範囲内に限られます。
- (2) 研究対象者から提供された情報の利用に関する通知
 - ①情報の利用目的および利用方法（他の機関へ提供される場合は
その方法を含む。）
 - ②利用し、または提供する情報の項目
 - ③利用する者の範囲
 - ④情報の管理について責任を有する者の氏名または名称